

市民と市長のタウンミーティング（要旨の報告）

日 時：令和8年2月7日（土） 18時30分～20時00分

場 所：シリウス610大会議室

テ ー マ：財政健全化

参加人数：10人

開会挨拶、財政健全化ビジョンの概要説明後、参加者からの質疑に応答。

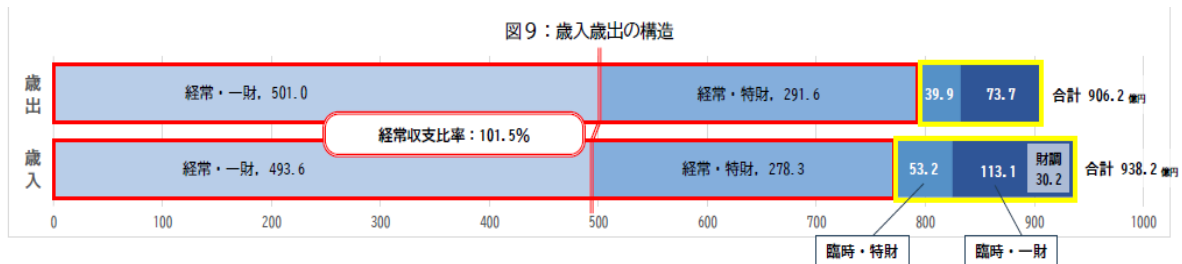
<質疑応答>

【参加者】

- ・身の丈を超えた市民サービスについて、毎年入ってくる自由に使えるお金よりも毎年出ていくお金の方が多いとの説明があったが、自由に使えないお金も入ってくるから差し引きはマイナスになっていないということか。
- ・トータルでマイナスになっていないと説明があったので、結局のところ入ってくるお金よりも出ていくお金が多いから貯金を取り崩していると理解していたのだが。

【市長】

（財政健全化ビジョンP8の図9をスクリーンに投影）



- ・毎年入ってくる自由に使えるお金よりも毎年出ていくお金の方が多いというところで、マイナスにはなっていないと説明したのは、この図にあるように経常的に必ず出ていくお金、人件費、扶助費、物件費などが、市の全体の予算のうち、経常的な収入と支出を比べて、支出の方が多くなって101.5%になったということである。
- ・市民サービスを向上させるため、いろいろなことをやってきた部分をどうやって切り詰めていくかが問題になっている。

【財政健全化プロジェクトリーダー】

- ・令和6年度では歳入の方が多く黒字決算である。
- ・経常収支比率が100%を超えたというのは、自由に使えるお金である一般財源、家計でいうと毎月の給料にあたる部分の収支を比較すると支出の方が多くなっている状態で、収支を割り算すると101.5%になる。
- ・本来はこの部分が100%を超えていない状態でなければならない。
- ・この状態をどのように対処していたかという、経常支出が多い分は市の貯金である財政調整基金を取り崩して財源に充てることで収支のバランスを取っていた。

- ・ 財政調整基金の残高が少なくなり、収支のバランスが悪い財政構造を放置し続けたら、貯金がなくなってしまうと急に何かをやめなければならなくなる。
- ・ このままであれば、令和9年度に貯金がなくなる見込みであり、そうなる前に改善するために財政健全化の取組を始めたところである。

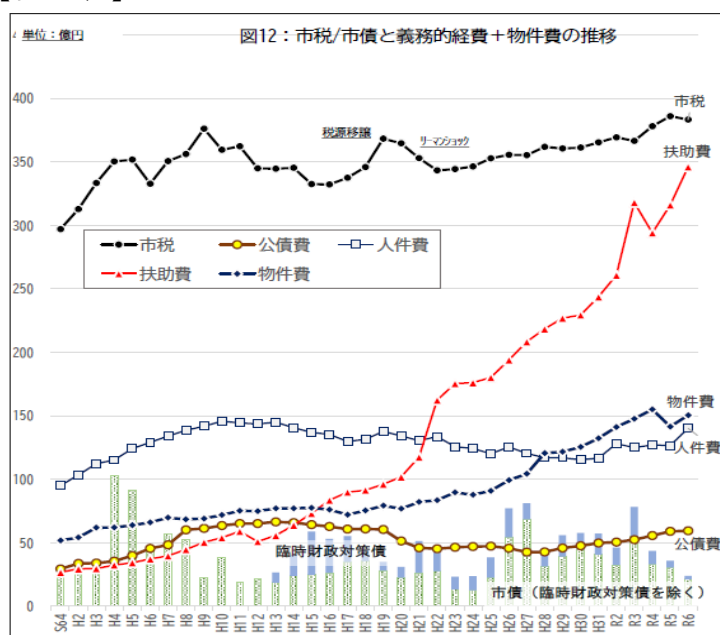
【参加者】

- ・ 支出を減らすよりも増やすことに具体的な計画が必要だと思う。
- ・ 一番増やすことができると考えている具体的な場所やプロジェクトはあるか。

【市長】

- ・ 増やしたいという思いは私にもあるが、増やすというのはなかなかすぐに実現できないところがある。
- ・ 大変心苦しいことであるが、人件費、維持費、管理費が上がっているため、公共施設の使用料を上げざるを得ない状況で、少しずつ段階的に上げていることについてご理解をいただきたい。
- ・ 増やすためには企業誘致が重要と考えている。
- ・ 市内の空いている土地や建物など、既存のものを有効活用しながら、企業誘致して増やしていきたい。
- ・ 増やしていくためには市民の皆さんの協力なくしてはできないので、そういった具体策を周知しながら企業を誘致していく。

【参加者】



- ・ 義務的経費+物件費の推移のグラフ（財政健全化ビジョンP12の図12）について、増えているのは大和市特有の増加なのか、他市でも同じような増加がみられるのか。
- ・ 本日のグループワークは限られた時間なので、収入増か、支出減か、どちらかに集中して話した方が、意味のある議論になると思うので、議論の視点として質問した。

【市長】

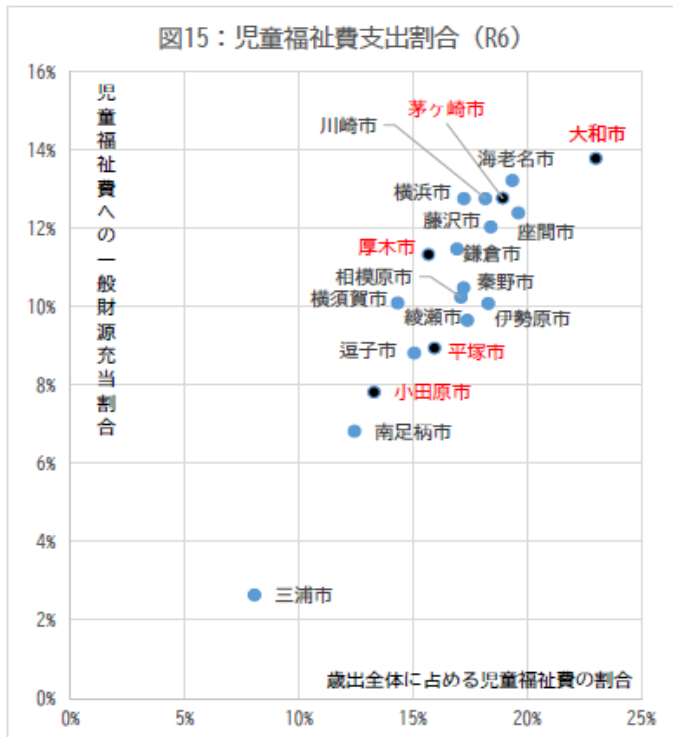
- ・義務的経費＋物件費の推移のグラフについて、増えているのは大和市特有ではなく同じような状況の自治体は多い。
- ・人件費の上昇、物価高騰でどこの自治体も苦しみながら予算を組んでいる。
- ・収入を増やして支出を減らすということを職員と一丸となってやっている。
- ・将来の大和市のためにもここでバランスを考えながら財政健全化の見通しをしっかりと立てていかないといけない。
- ・私としては、時間がかかることであるが、大和市が企業から選ばれるまちになるようにしたいと考えている。
- ・現在、様々な企業に出向き、国や県にもアンテナを張っている。
- ・企業から大和市のここの土地はどうかと聞かれた時は、すぐに私が企業を訪問して大和市への移転について話をしている。
- ・大和市は市内に私鉄3社8駅ある利便性が一番の魅力である。
- ・県内で人口が増えているのは横浜市、川崎市、海老名市、大和市の4つ。
- ・更に、自然災害ゼロという災害に強いまちというのも大きな魅力である。
- ・地盤が平らで安定しているから、厚木基地があり、私鉄3社も乗り入れているのである。
- ・大和市を選んだ企業は、100年、200年前のデータから災害がなかったという歴史を見て決断しており、建物や設備の損害を抑え、社員を守るため、リスク回避のために選んでいる。
- ・そういった企業にとってのメリットがあることをもっと売りにして企業誘致をしていきたい。
- ・収入を増やすところと支出のバランスを見ながら、市民に負担を求め過ぎないように財政健全化の取組を進めていきたい。

【参加者】

- ・扶助費、民生費の詳細を知りたい。
- ・細かく出すことで問題点がもっと見えてくる。
- ・民生費の中で伸びているもの、変わらないものを明確に知りたい。

【財政健全化プロジェクトリーダー】

- ・扶助費には、障がい者、高齢者、生活保護、子育て施策の児童福祉、就学援助の教育にかかるものなどがある。
- ・この中で一番多いのは児童福祉の209億円で主に保育所に係る経費となっている。
- ・児童福祉費は他の民生費内訳項目と比べて最も多い。
(財政健全化ビジョンP8の図9をスクリーンに投影)



- ・大和市は保育所が92園あり、他市との比較ではこの図にあるとおり、横軸が歳出全体に占める児童福祉費の割合、縦軸がそこにかけている市税を主とする一般財源の充当割合となっており、いずれも県内で一番多くなっている。

【参加者】

- ・ふるさと納税で2～3億円出ていっているとのことだが、大和市へふるさと納税される額のここ数年の推移を知りたい。

【未来政策部長】

- ・大和市へのふるさと納税の推移については、年度によって異なるが、過去一番多かった時で1億円を少し超えるくらい。
- ・ここ最近では6000万円ぐらいで推移している。

【参加者】

	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
歳入	46,837	46,990	47,649	49,400	51,144
歳出	49,198	48,880	50,748	52,404	54,349
収支不足額	▲2,361	▲1,890	▲3,099	▲3,004	▲3,205

	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
財調繰入金	1,770	1,890	1,850	2,100	2,500

*当初予算での収支不足額は財調（財政調整基金）繰入金で穴埋め

- ・財政見通しに収支不足額（財政健全化ビジョンP26の表8）について、財政健全化ビジョンを策定するということは、この収支不足額を限りなくゼロ

にしていきたいという目標があるのか。

- ・また、それよりも以前の収支不足額はどうか対応していたのかを教えてください。

【財政健全化プロジェクトリーダー】

- ・この表で示した収支不足額は財政調整基金の取り崩しを歳入に含めないで計算した計画段階のものである。
- ・この収支不足額を予算編成までに解消することができなければ、貯金である財政調整基金の取り崩しをするしかない。
- ・目指すのは、これ以上貯金が減らないようにすることである。
- ・また、財政を健全化するために、事業をやみくもに見直すのではなく、総合計画に掲げる目標に向けた財源を生み出すために、どの事業を残すかを定めることも財政健全化の目的である。
- ・もう一つの目的は、予算編成の短期間で数十億円もの予算を切れないので、大きな収支不足のある見通しで計画していくことを止めるために、規律ある財政を掲げている。

【参加者】

- ・説明の中で児童福祉費が教育費の倍になっているとありショックを受けている。
- ・私たちの保育園は15年前にできた当時の民間保育園は20園くらいであったが、待機児童ゼロを目指して増やしてきた結果、現在92園になっている。
- ・ビジョン概要説明の中で、市民サービスとしてその当時は必要性があったとのことであったが、保育園を運営する側として危機的と思っている。
- ・これまでも、様々な形で待機児童をゼロにするために保育園を作り過ぎていることが課題であると訴えてきた。
- ・市民サービスのお金がかかっている、出ていくお金を減らしていく、切り詰めていくところで、どう評価しているかということが、その切り詰めていくときの判断材料になると思う。
- ・保育など、こどもにかかっているお金が負担だから減らしていくと考えているとしたら、それはとても危険なことだと思う。
- ・この状況を市長はどう評価しているのか。

【市長】

- ・前市長が掲げた子育て王国は、間違いではないと思っている。
- ・働いている保護者が安心してこどもを預けられるようにするため、待機児童をゼロにするという強い意志があり、保育園の建設が拡大された。
- ・私が市長に就任後、令和6年度に幼稚園協会、保育園協会と懇談した際に、待機児童ゼロを突き詰めるあまり保育園を作り過ぎて定員割れを起こしていることを現場から聞き、令和7年度は作らず、利用者と施設のマッチングをしっかりとっていく方針とした。
- ・今は待機児童ゼロに囚われないので、7人の待機児童となった。
- ・4月1日現在にゼロでも、1か月経って待機児童が増えては意味がない。

- ・現場の声を聞いてしっかりしたマッチングをしていく。
- ・保育士不足の現状もある中で、保育園をいたずらに増やすと質より量になってしまい、今も大変申し訳なく思っているが不適切保育が起きてしまった。
- ・こういったことが二度と起こらないようしっかりとやっていく。
- ・こどもたちにとって質のいい保育をやっていくにはどうしたらよいか、現場の皆さんと連携しながら、現場の意見を聴いていきたい。
- ・今後、人口の増加が続き、こどもが増える状況があるかもしれないが、今は保育園の建設が止まっており、今ある保育園と幼稚園でこどもたちをどのように受け入れていくのかを議論して前に進めていきたい。

<グループワーク（対話）>

- ・限られた時間で有意義な意見交換するため、以下の6点をお願いした。
 - ①「話す」こと以上に「聴く」を大切にする。
 - ②“否定せず”に、耳を澄ませる。
 - ③自分だけが正しいと思わず断定しない。
 - ④付箋への落書きで意見のメモを残す。
 - ⑤話したくないかたは、聴く中心でも構わない。
 - ⑥特定の誰かが話し過ぎてしまって、他のかたが話せないときは、話し手を変わっていただく場合がある。
- ・A～Bの2グループで、自己紹介（大和市で好きな場所、タウンミーティングに参加した理由）後、財政健全化ビジョンの説明、6つのお願いを踏まえて意見交換。
- ・各グループで意見をまとめ、以下の発表があった。

<グループ意見発表>

【Aグループ】

- ・儉約行政ということで、無駄をしっかりと無くしていく。
- ・職員数が減って手一杯になるとやりがい失われるので、職員をこれ以上減らしてはいけない。
- ・収入増につながる意見が数多く出ていた。
- ・大和市に高所得者世帯がたくさん住むようにするために、教育特区宣言をして、こどもの教育環境を改善したらよいのではないか。
- ・企業を市外から連れてくるのではなく、市内で生み出していくことも大切である。
- ・大和駅周辺を活性化する案として、賛否はあったが、プロムナードで毎週のようにお祭りを開催する、ストリートピアノを設置するという意見もあった。

【市長】

- ・無駄を無くすということは、財政健全化プロジェクトリーダーと特命担当課長が徹底的に分析している。
- ・無駄を無くしていくことも、市民の皆さんに丁寧に説明していく。
- ・大和市は人口24.5万人で茅ヶ崎市を抜き県内で7番目の人口となり選ば

れる市になった。

- ・茅ヶ崎市の職員は定数1150人、大和市の職員定数は1033人である。
- ・約120人の差があり、大和市は人件費は少ないが職員の負担は大きい。
- ・人件費が少ない分を財源として市民サービスをやってきた。
- ・財政が厳しくなった時に市民サービスを削ることは非常に難しいので、市民サービスに関わらないところで減らせるものは徹底的に減らしている。
- ・職員が少ない分は外部委託しているので、外部委託を減らして職員が自ら汗をかいて頑張っていこうとしている。
- ・職員の心に余裕がないと大和市も幸せになっていけないのでしっかりやっていきたい。
- ・大和市は未就学までは手厚いが、学校に入った途端に他市並みになる。
- ・子どもたちにはよりよい教育を受けて社会に出て行ってほしい。
- ・進んだ教育、小学校、中学校、もっと手厚くしていきたいので、教育特区に関する意見はしっかり受け止めさせていただく。
- ・市内での創業、起業について、先日、大和市に本社、工場があって業績が伸びている企業で、ふるさと納税の返礼品にも協力いただいている。
- ・市内の創業支援はどんどんして税収を上げていきたい。
- ・ストリートピアノは来年度以降実現できるようにがんばっていく。

【Bグループ】

- ・事業の縮減についての意見が数多く出ていた。
- ・保育所については、保育士の確保が難しい状況の中、保育の質を考えると保育士の処遇にかかるものは削減せずに、他のところで工夫するべきである。
- ・広報やまとは全戸配布で11万世帯にカラー印刷で配っているが、デジタル化して市民が選択できるように見直したらよいのではないか。
- ・財政の健全化についての周知方法をもっと工夫して、子どもから高齢のかたまで、多くの市民が幅広く興味を持つよう工夫して、もっと危機感を共有できるようにするべきである。
- ・財政健全化一辺倒だと暗くなってしまうので、子どもたちが大好きな大和市で明るく元気に過ごせるようにしてほしい。
- ・子どもがヤバいと思うようなまちにはしたくない。
- ・縮減とまちづくりというところで、総合計画の取組に収支がとれるような形で、何をこのまちでやっていくのか、どういうまちにしていきたいのか、ビジョンとして、既に掲げていると思うが、もっとわかりやすく、財政の部分も連動させて訴えていけるとよいのではないか。

【市長】

- ・財政を縮減していくにしても工夫して、必要などころにしっかりと財源を充てていく。
- ・保育士の確保が難しい状況は認識しているので支援していきたい。
- ・保育園、幼稚園、小学校、中学校、こどもは宝なので教育はしっかりやっていきたい。

- ・ 広報やまとは、以前はイラストだったものを、もっと見やすくするために写真を入れるようにした。
- ・ 2世帯、3世帯で住んでいる家もあるため、12.5万部に増刷している。
- ・ 広報やまとをほしいと言っただけのことはうれしい悲鳴である。
- ・ 今はデジタル機器が普及しており、紙の配布は不要という世帯もあるかもしれないので、縮減につながるご意見として参考にしていきたい。
- ・ かつて大和駅周辺は治安が悪いと言われ、空母艦載機の騒音もありネガティブなことが多かったが、今は基地も静かになり、シリウスも日本一の来場者数になるなど、大和市の印象も変わってきている。
- ・ こういった流れの中で、ごみのない清潔なまちにするためにごみを拾う運動を進めている。
- ・ 今日高座渋谷駅周辺でスポGOMI やまとカップを開催した。
- ・ こどもから高齢のかたまでたくさん参加いただいております、賛同する企業も増えている。
- ・ ごみ拾い＝運を拾うということで、皆で支え合い助け合って、大和市がきれいになっていけばと思っている。
- ・ 私は大和市のポテンシャルは高いと思っている。
- ・ 見過ごされてきたことであるが、自然災害ゼロの市はなかなかない。
- ・ 災害に強いまちということで、厚木基地があり私鉄3社が乗り入れている。
- ・ 100年、200年の歴史を見て、大和市の地盤が安定しているから、企業や人から選ばれており、それに奢ることなく災害対策を講じていく。
- ・ 厚木基地については、大前提は返還である。
- ・ 返還されるまでは有効活用として民間機を就航させたい。
- ・ 軍用機と違い民間機は人を幸せにする。
- ・ 人も物も運ぶ民間機が厚木基地を利用できるようになれば新たな経済が生まれ、皆が喜ぶまちになれるのではないかと思う。
- ・ 大和駅は既に新横浜まで19分、中央林間は始発駅である。
- ・ 綾瀬市、海老名市はスマートインターができて人が集まり物流がよくなり発展しており、大和市も花博のタイミングで近くにスマートインターができるので、住宅だけでなく、企業からも選択の一つとして選ばれるまちになる。
- ・ 花博とその後のテーマパークにより大和駅を中心に駅前がにぎわうようになり、駅からちょっと離れば閑静な住宅地のある、暮らしやすいまちにしていく。
- ・ 本日を含む4回のタウンミーティングでいただいた皆さんの声は、職員と情報共有して今後活かしていく。

以上